

月刊

社協だより

平成30年
10月号



発行：狩留家地区社会福祉協議会 編集：広報部
広島市安佐北区狩留家町3144番地 TEL：844-0826

「歴史と花一杯の町・狩留家」

最近の狩留家で小さいお子さん（〇歳〜三歳児）をよく見かけるようになったと思いませんか。広島市市民人口統計（六月末時点）によると過去二、五年前までは、当該幼児は十人以下の数字で推移していましたが、昨年は十二人、今年は十七人になっていきます。狩留家では小さなお子さんが増え始めました。

子どもが増えると言う事は、狩留家が賑わいのある町になると言う事です。二年前に県立島根大学の藤山浩先生が新春文化講演会で「外部から三十代の家族に毎年人口の1%以上移入していただければ、その町は衰退しない」と言われました。現在狩留家の人口は約千二百七十人です。毎年十三人以上の幼児の誕生が、外部から若い夫婦家族の移入があれば狩留家は安泰だと言う事です。私達住民が何もしないでただ願っているだけではこの事は実現しません。現在考えられる具体的な

活動としては「夢のような花一杯の町づくり」をしましょう。狩留家を「歴史と花一杯の町」と呼ばれるような町づくりをしましょう。幸いに狩留家は、広島都市に一番近い本物の田舎であると共に、史跡が身近なところに点在しています。「歴史と花一杯の町」に

高齢者疑似体験講習会に参加して

十月九日、狩留家集会所で高齢者の不自由さを体験しました。十月二十八日のかこがわ子どもフェスタで狩留家地区社協は、

は若い女性が集います。夢のある町狩留家にするのは私たちです。「自分が出ることは自分でやり、お手伝いできることは出来るだけ、出来る時に、行動し合う」「花一杯の町、夢のある町・狩留家創り」を一緒にやりましょう。花のお手入れが狩留家再生の活動です。そんな活動の中で、幼い子供たちと触れ合う楽しみも増えてくるでしょう。

（会長記）

子供たちに高齢者疑似体験してもらいます。そのための役員の事前研修です。

視野が狭くなる眼鏡、関節が動かなくなる拘束バンド、耳が遠くなる耳栓、感覚が鈍くなる手袋、足が上がらなくなる重り等々。

「年は、取りとれないもんよ。あんた一年を取りんさんなよ。」

「あんたもすぐ年を取るよ。」と母は、会うたびに言います。



理事会報告

平成三十年十月九日

- 一、かこがわ子どもフェスタについて（十月二十八日）
- 二、普通救命講習について（十一月十一日）
- 三、花のある町づくりについて

母の動作が理解できず、愚痴が出る気持ちもわかりました。吉岡幸二講師は、「大事なのは、『やさしさと心配り』です。」と言われました。

子供たちは、変わるだろうか。自転車で後ろから追い越さなくなるだろうか。電車に乗ったら席を譲るだろうか。食べ物をこぼしても汚いなんて思わないだろうか。レジで戸惑っていてもイライラしないだろうか。『やさしさと心配り』とは、心の余裕だ。

まずは、かこがわ子どもフェスタで子供たちとふれあいましょう。ご参加をお待ちしています。

笑顔が集うしあわせ

夢かるが語ろう会は、毎年八月に保育園児交流会とソーメン会食をしています。今年は七月豪雨災害後で、実施すべきか検討しましたが、みんなが集まるのが一番大切だということで行なうことになりました。

二十四日、園児さん十三人が無邪気な愛らしい笑顔で訪れてくれました。一緒に歌ったり手遊びをしたりして楽しみ、手作

りの状差しのプレゼントと共にたくさん元気ももらいました。子供たちの力は大きいです。その後いただいた鯛ソーメンとおむすびはなんともいえないやさしい味でした。それから包括支援センターの方からの災害時の困りごとなどの聞き取りがあり、紙芝居で笑って解散。集って笑えたことに感謝でした。

九月資源ごみ売上

一万八千円